

高句麗壁画古墳と東アジア

門田 誠一 著

▶ A 5判・460頁／定価 9,030円（税5%込）ISBN978-4-7842-1546-1

2011年1月刊行

高句麗の人々が営んだ古墳は独特の形状と内容を持ち、さまざまな視座からの研究が行われてきた。本書では壁画に描かれた図像や題材のなかで、もっとも重要な対象である墓主像に焦点をあて、文献や金石文と照らし合わせながら体系的に考察する。また先行研究ではなされなかった、同時期の東アジア地域の壁画史料との相関的検討を行う。塵尾や凭几など、壁画に描かれた威儀具・威信財にも着目し、それを持つ墓主の社会的位置づけや当時の価値観にも言及する。高句麗社会と文化の一端を復元し、古代のみならず、東アジアの歴史的時空の再構築をめざす労作。

内容目次

序 章

- 第一節 本書における高句麗壁画古墳研究の方法と目的
- 第二節 高句麗古墳壁画の研究略史－図像学的方法とその展開－
- 第三節 研究史における本書の位置と目的
－東アジアにおける高句麗壁画古墳の検討のために－

第一章 高句麗古墳壁画の墓主像

- 第一節 東アジアの壁画墓に描かれた墓主像の基礎的考察
－魏晉南北朝期における高句麗古墳壁画の相対的位置－
- 第二節 高句麗古墳壁画に描かれた塵尾を執る墓主像
－魏晉南北朝期の士大夫としての描画－
- 第三節 高句麗古墳壁画中の什器と墓主－凭几の所有者たち－
- 第四節 高句麗古墳壁画における鎧馬図考
－鎧馬騎乗人士の階層的位置づけをめぐって－

第二章 高句麗古墳壁画に表れた文化と信仰

- 第一節 銘文の検討による高句麗初期仏教の実相
－徳興里古墳墨書の仏教語を中心に－
- 第二節 高句麗壁画古墳に描かれた仏教的行事
－「百戯伎楽」図の意味と系譜を中心に－
- 第三節 徳興里古墳築造における葬送と造墓の思想的背景
－墓誌銘の出典論的研究による接近－
- 第四節 高句麗古墳壁画に描かれた角杯
－亡命漢人による文物移入の様相－
- 第五節 高句麗古墳壁画の角抵図について
－日本古代の力士表現との比較をかねて－

第三章 東アジアにおける

高句麗壁画古墳の史的環境

- 第一節 装飾古墳における大陸系人物像の出現
－五郎山古墳壁画を中心として－
- 第二節 高句麗古墳壁画と飛鳥時代古墳壁画の比較検討
- 第三節 古墳時代における塵尾の存否について
－中華文物の流入と「威信財」の実体－
- 第四節 朝鮮三国時代の王陵とその歴史的特質

付 論

- 第一 高句麗古墳における瓦罍使用の方法とその意味
－瓦当銘の検討から－
- 第二 高句麗古墳にともなう石柱についての基礎的知見

終 章 高句麗壁画古墳と東アジア世界

- 第一節 高句麗壁画古墳の墓主像の示す世界
- 第二節 高句麗古墳壁画に表れた宗教と思想
- 第三節 東アジア世界における高句麗壁画古墳の史的背景
- 第四節 高句麗古墳壁画の文化史的考究と課題

あとがき

もんた・せいいち 1959年生。同志社大学大学院文学研究科修士課程修了。学校法人同志社埋蔵文化財委員会調査主任、佛教大学専任講師、助教を経て現在、佛教大学歴史学部教授・博士（文化史学・同志社大学）

【主要著作】『よくわかる考古学』（共編著、ミネルヴァ書房、2010年）『文学のなかの考古学』（思文閣出版、2008年）『古代東アジア地域相の考古学的研究』（学生社、2006年）『旅する考古学』（昭和堂、2004年）『海でむすばれた人々』（同朋舎出版、2001年）『はんこと日本人』（大巧社、1997年）『海からみた日本の古代』（新人物往来社、1992年）など

思文閣出版

〒606-8203 京都市左京区田中関田町2-7 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注 文 票		発 行 : 思 文 閣 出 版		(京 都 取 引 コ ー ド 3402)	
冊 数	冊	高句麗壁画古墳と東アジア 本体8,600円(税別)		ISBN978-4-7842-1546-1	
お 名 前			tel		
			e-mail		
ご 住 所	〒				
送本方法	☐ 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) ☐ 代 引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい)				
					書店番線印

漢簡の基礎的研究

大庭脩編

日中両国の研究者による漢簡の共同研究の成果【内容】簡牘書翰の機能と特徴（大庭脩・李均明・劉軍）漢代太初曆考—漢簡に見られる『節氣』を手掛かりとして—（吉村昌之）日本における中国古印の研究【付：日本収蔵中国古印図録】（陳波）『居延漢簡補編』の出版（大庭脩）中国漢牘研究文献目録[1903～1995年]（門田明）
▶B5判・220頁／定価 13,650円 ISBN4-7842-1000-8

※蓬萊山と扶桑樹 日本文化の古層の探究

岡本健一著

中国伝来の神仙思想のうち、不老長生の仙境「蓬萊山」のイメージと、生命更新の仙木「扶桑樹」のシンボルが、日本の古代文化におよぼした影響の諸相を、歴史考古学的に明らかにする。20年前より「前方後円墳＝蓬萊山起源」説を提唱してきた、元新聞記者でもある著者の研究集大成。
▶A5判・442頁／定価 5,775円 ISBN978-4-7842-1400-6

※正倉院宝物に学ぶ

奈良国立博物館編

日々、宝物の保存と修理に携わる宮内庁正倉院事務所の研究者をはじめ、東大寺・奈良国立博物館ゆかりの国内外の研究者が、「正倉院研究の現在」、「正倉院宝物と8世紀東アジアの文化」、「守る・伝える正倉院宝物」の3つのテーマで報告・討論。正倉院宝物の精粹がわかる一書。
▶46判・438頁／定価 3,150円 ISBN978-4-7842-1439-6

仏教東漸の旅 はるかなるブッダの道

宇野茂樹著

釈迦の聖地を起点に悠久の歴史が遺した信仰の足跡をたどる仏教美術巡礼。仏跡の地図・写真多数収載。【内容】釈迦の遺跡を訪ねて／インドの寺院と石窟寺院／パキスタンの仏教美術／新疆ウイグルの遺跡のかずかず／河西回廊の仏教遺跡／中国中原の石窟／河北・山西・山東省の石窟／韓国の石仏／追録（インドの早期石窟）
▶46判・296頁／定価 2,625円 ISBN4-7842-0991-3

東アジアのなかの日本

上田正昭著

日本列島の歴史や文化の実像をよりあざやかにするために、海を媒介とするアジアとのかかわり、とりわけ東アジアとの関係を重要なテーマとしてきた著者が昨今の論文や講演録などをまとめた最新の一書。【内容】嵯峨野と秦氏／神々のふるさと／鎮守の森と南方熊楠／歴史のなかの聖徳太子像／飛鳥廻望／朝鮮通信使と鼻塚 ほか
▶46判・376頁／定価 2,520円 ISBN978-4-7842-1479-2

北太平洋の先住民交易と工芸

大塚和義編

アイヌをはじめとする北太平洋地域先住民の交易ルートの実態を明かし、あわせて文化遺産としての工芸芸術を紹介。歴史学・考古学・化学分析などの学際的な最新の成果を盛り込んだ多彩な執筆による全34編。先住民の暮らしと産業をビジュアルに理解できるカラー図版150点を収録。
▶A4判・150頁／定価 2,940円 ISBN4-7842-1087-3

日本古代都市史研究 古代王権の展開と変容

堀内明博著

永年、平安京などの都市遺跡発掘調査に携わった著者の研究成果。長岡京の東宮と左京東院、平安京の条坊と市・町の形態、宅地と建物配置などの王朝都市から、白河・鳥羽殿、源氏・平氏の館などの中世前期都市まで、都城の展開と変容過程を時系列的に分析し、古代王権のあり方を考古学の成果を踏まえて解明した一書。掲載図版多数。
▶B5判・514頁／定価 15,750円 ISBN978-4-7842-1457-0

歴史のなかの天皇陵

高木博志・山田邦和編

近年、学界の要請をうけて限定公開され、社会的にも大きな関心を集めている陵墓。各時代に陵墓がどうあり、社会のなかでどのように変遷してきたのか、考古・古代・中世・近世・近代における陵墓の歴史をやさしく説く。京都アスニーで行われた公開講演に加え、研究者・ジャーナリストによるコラムや、執筆者による座談会を収録。
▶A5判・340頁／定価 2,625円 ISBN978-4-7842-1514-0

東アジアと『半島空間』 山東半島と遼東半島

千田稔・宇野隆夫編

文明にとって半島は、文化の拡散過程におけるゲートウェイの性格を持ち、文化がそこに滞留し醸成する場であった。山東、遼東半島では、先史・古代・中世までは中国文明の出口、近代にあつては列強諸国による近代文明の侵入口であった。通時・学際・国際的な議論から東アジア文明論に新視点を与える。日文研でのシンポジウムの成果。
▶A5判・420頁／定価 5,040円 ISBN4-7842-1117-9

埴川の来た道 白鳳期仏教受容の様相

後藤宗俊著

「埴川の来た道」を丹念にたどり、そこにこめられた祈りの諸相を明らかにし、あわせてその途上に浮かび上がる玄奘・道昭・法蓮などの偉大な僧の信仰と人間像に迫る。まとまって出土した大分県宇佐市の虚空蔵寺跡の調査に携わった著者が考古学・美術史・文献史学などの領域にわたって学際的に探った一書。
▶A5判・322頁／定価 5,985円 ISBN978-4-7842-1433-4

正倉院展六十回のあゆみ

奈良国立博物館 編集・発行

正倉院には約9,000件の宝物が収められている。終戦後すぐの昭和21年に奈良帝室博物館で第1回正倉院展が開始されて以来、60回を数える正倉院展の歩みを、各回の主な出陳宝物の図版や特徴・エピソード・出陳一覧などのデータと、各分野の研究者によるエッセイでたどり、毎回の図録に付されている用語解説を整理・集大成して付す。
▶A4判・286頁／定価 3,150円 ISBN978-4-7842-1440-2

仏教東漸 祇園精舎から飛鳥まで

龍谷大学350周年記念学術企画出版編集委員会編

西域（陳舜臣）大谷光瑞師と近代仏教学（井ノ口泰淳）インド・祇園精舎の仏教遺跡（網干善教）中国敦煌学の現段階（施萍婷）韓国毘盧遮那仏像の成立とその図像的象徴（美友邦）塑像技法の伝来（西川杏太郎）李柏文書（藤枝晃）仏教徒と異宗教との出遭い（森安孝夫）舍利信仰のひろがり（山田明爾）絵画作品の諸問題（上野アキ）記録写真集（藤枝晃）
▶B5判・264頁／定価 5,670円 ISBN4-7842-0699-X

※古代日本の輝き

上田正昭著

日本の歴史と文化を支えている「古代的精神・古代の要素」とはなにか—広くアジア史をも視野に入れて折口民俗学を継承する著者が喜寿の節目にまとめた一書。【内容】近江・渡来人の軌跡／北ノ海文化の再検討／高天原と水平思考／『風土記』の伝承／福の神／節分の鬼／東海と北海／丹後宮津の黎明／道鏡の実像／古代芸能の形成 ほか
▶46判・300頁／定価 1,785円 ISBN4-7842-1167-5

※中国における妊娠・胎発生論の歴史

中村禎里著

現在、日本をふくめて世界中で生命倫理をめぐる議論が熱心に進められている。この問題の解決方途は、各民族・地域の文化伝統を考慮しなければ説得力を獲得できないであろう。本書では、中国文化およびインド仏教における妊娠・胎発生論の歴史を通史的に叙述。生から死に移る過程や死観に集中している生命観の研究に一石を投じる。
▶46判・256頁／定価 2,940円 ISBN4-7842-1295-7

※紫金山古墳と石山古墳

京都大学文学部考古学研究室編 京都大学文学部博物館図録

昭和22～26年に梅原・小林両博士の指導により発掘された紫金山と石山の両古墳は、新視点から古墳時代の理解を大きく転換する契機であった。古墳の被葬者の歴史的な性格を問題にした古墳時代中期の設定、伝世鏡論、同范鏡論など、古時代に関心をもつ人々に大きな衝撃を与えた。京都大学文学部博物館 '93春季企画展に際し作成した図録。
▶B5判・130頁／定価 1,732円 ISBN4-7842-0772-4

神霊の音ずれ 太鼓と鉦の祭祀儀礼音楽

朱家駿著

祭祀儀礼に用いられる太鼓や鈴・鉦の音楽的な機能と本質はどこにあるのか—祭祀儀礼の音をさぐるフィールドワークと象形文字に発した古代漢字（音・楽・鼓など）の分析を重ね合わせることによって神霊と音の様相を解明。【内容】祭祀儀礼音楽研究序説／神霊の音ずれ／水の神・音楽の神／祭神・祭礼の諸相／楽の器／銅鼓のコスモロジー
▶A5判・196頁／定価 3,675円 ISBN4-7842-1095-4

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。